（８） 歳入歳出収支見込（令和7年度一般会計当初予算ベース）

１．歳入

（単位：百万円）

	R6年度	R7年度（ベース）	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
自主財源	16,284	17,796	19,085	17,898	18,077	17,773
市税	12,178	12,854	12,991	12,924	12,986	13,047
ボート基金繰入金	600	914	1,470	1,206	1,195	914
その他	3,506	4,028	4,624	3,768	3,896	3,812
依存財源（交付金、譲与税、国県支出金、地方債）	9,506	10,244	13,620	9,736	10,520	10,525
①歳入合計	25,790	28,040	32,705	27,634	28,597	28,298

２．歳出

（単位：百万円）

	R6年度	R7年度（ベース）	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
義務的経費	11,124	12,587	13,441	13,555	13,643	13,342
人件費	4,391	4,761	5,015	4,968	4,968	4,943
扶助費	4,795	5,586	5,635	5,638	5,638	5,638
公債費	1,938	2,240	2,791	2,949	3,037	2,761
消費的経費	8,976	10,893	13,359	10,631	10,623	11,157
投資的経費	2,681	2,760	4,151	2,141	3,136	2,437
その他	3,009	2,530	2,498	2,437	2,484	2,424
②歳出合計	25,790	28,770	33,449	28,764	29,886	29,360

３．財源不足額

（単位：百万円）

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
③歳入歳出差引①－②（財源過不足額）	0	△ 730	△ 744	△ 1,130	△ 1,289	△ 1,062

※実際の収支不足額をわかりやすくするため、臨時的財政措置である財政調整基金の活用を歳入から除いて表示しています。

４．財源不足額の補填

（単位：百万円）

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
財政調整基金	(A)歳計剰余金に係る積立額		202	202	201	200	200
	(B)財源不足額取崩**前**残高		2,743	2,215	1,672	742	200
	(C)取崩額（財源不足額分）		730	744	1,130	742	200
	(D)年度末残高　(B)-(C)	2,541	2,013	1,471	542	0	0
財政調整基金で補えない不足額　③+(C)			0	0	0	△ 547	△ 862
まちづくり基金ボートレース	(E)財源不足額取崩**前**残高		7,118	8,648	7,442	6,247	4,786
	(F)取崩額（財源不足額分）		0	0	0	547	862
	(G)年度末残高　(E)-(F)	5,003	7,118	8,648	7,442	5,700	3,924

※令和6年度末残高は、3月補正後見込み

５．今後の財政運営の考え方

令和8年度以降の試算では、財源不足額を全て基金で補填していますが、このままのペースで基金が年々減少すると、健全な財政運営が確保できなくなる恐れがあります。

このような状況に陥らないよう、将来事業については、事業の優先順位づけや規模の適正化、また既存事業については、段階的な見直しを今まで以上に図っていく必要があります。

（９） 長期債務残高見込（令和7年度当初予算ベース）

（単位：百万円）

	R6年度	R7年度（ベース）	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
市債	53,631	52,298	53,432	51,615	51,030	49,916
一般会計	30,008	29,637	29,986	28,681	27,961	27,500
特別会計	363	6,692	6,107	5,613	5,861	5,542
企業会計	23,260	15,969	17,339	17,321	17,208	16,874
債務負担行為	2,144	1,731	1,336	941	546	151
合計	55,775	54,029	54,768	52,556	51,576	50,067

※＿＿＿は期間内の最大値

主な増減理由

令和6年度は給食センターの整備、令和7・8年度は市体育館の大規模改修により一般会計の市債は増加する見込みです。

令和7年度は、市民病院の経営統合に伴い病院の企業債残高を新たに設置する特別会計に移管するため、特別会計と企業会計間で大幅な増減があります。

（10） 財政健全化指標見込（令和7年度当初予算ベース）

（単位：%）

	R6年度	R7年度（ベース）	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
① 実質赤字比率	－	－	－	－	－	－
②連結実質赤字比率	－	－	－	－	－	－
③ 実質公債費比率	12.3	12.6	14.0	16.0	17.9	17.6
④ 将来負担比率	81.4	78.0	78.6	88.0	101.9	116.0

※＿＿＿は期間内の最大値

主な増減理由

実質公債費比率は、給食センターの整備や小中学校屋内運動場の空調設備整備に係る市債の元金償還開始等に伴い、数値が上昇していく見込みです。

将来負担比率は、ボートレース事業収益の繰入方法見直しに伴う繰入額の増により一時的に数値の改善が見込まれますが、財政調整基金等の基金残高の減少により、後年度は数値が上昇していく見込みです。